

クラス番号	614	担当教員名	藤田 哲也
テーマ	社会的養護の下に育つ子どもたちの将来を考える ～ 児童養護施設の実践をもとに ～		
著書・論文	研究課題： 子どもの目から見た児童養護施設の生活に関する研究，児童養護施設の職場環境 主著： 『子どもと福祉 vol.3』(明石書店)，『児童養護施設で暮らす発達障害の子どもたち』(福村出版) 『しあわせな明日を信じて 2』～乳児院・児童養護施設の子どもの3年後の便り～(福村出版) 『子どもの社会的養護内容』(福村出版)		
研究課題等	主論文： 「児童養護施設の職員が長く働き続けられるための条件－勤続職員と退職職員への同時調査からの視点－」『福祉研究No.103』2011年12月，「児童養護施設での生活経験がある者から見た“よい職員”とは－入所児童と退所児童へのアンケート調査の結果から－」『金城学院論集第8巻第2号』2012年3月,など		

ゼミナール概要

キーワード： 社会的養護 児童養護施設 子ども虐待 最善の利益 児童養護施設職員

1. <目的>

社会的養護の現状や課題から『子どもの幸せ』を追求するために、ゼミ生一人ひとりが自分なりの視点を持ち、課題を克服するために自ら考え、実践できる力が身についていることを目的とします。

2. <内容>

虐待を受けた子どもが多く生活する施設において、子どもと関わる際は、子どもの言葉や行動、表現のみに捉われるのではなく、その裏側にある意図をくみ取りながら関わる必要があります。また、発達に課題のある子どもについても、その関わりが難しく将来の見通しが立ちにくい現状もあります。そのような現状をふまえ、以下の④点を中心に取り組んでいきたいと思います。

- (1). 課題を的確に捉え、施設で生活する子どもの『最善の利益』を守るということは、どのようなことなのか、何が必要なのかを事例や資料、文献などを通して検討していくことができればと思います。また、制度・政策の視点、子どもの権利擁護の視点、安心・安全な生活保障の視点、家族や親への視点、地域関係機関との連携の視点、職員同士のつながりの視点等、子どもを取り巻くあらゆる環境も視野にいれながら、学びを深めていければと考えています。
- (2). 学内でのゼミ以外に、全国児童養護問題研究会全国大会（6月末）や日本福祉大学社会福祉学会（5月末）等に参加し、施設職員や施設生活経験者、他大学の学生との学習や交流活動も考えています。その他、様々なゼミの取り組みなども学生主体で企画・実施したいと思います。
- (3). 施設見学や施設生活経験者との交流を含めたフィールドワークをとおして、社会的養護について体験的に学べる機会を持ちたいと思います。
- (4). このゼミを志望する学生は、エントリーシートに①社会的養護に関心のあるテーマと概要、②卒業後に考えている職業（現段階で）、③ゼミに対しての意気込みを記載してください。テキスト、参考書籍に関しては、後日お知らせします。

3. <方法と授業計画>

- 3年生の前期は、社会的養護に関する文献や資料を読み、基礎知識の習得を目指します。後期は、施設見学や学習会の機会を多く持ち興味や関心、知識などを深めていきながら、事例検討を行う事で対応力や実践力を身に付けます。
- 4年生では今まで学んだ事を基礎とし、それぞれが研究テーマを設定し、卒業論文執筆に取り組みます。ゼミの時間に中間報告会を実施し、話し合いの中で気付きを深め完成に向けて取り組みます。

担当教員からのメッセージ



- ①このゼミは一人ひとりがテーマを持ち、意欲的に学び合う場になればと思っています。学生が主体的な運営をしながら、仲間と共に高め合っていけるゼミでありたいと思います。
- ②私自身が児童養護施設で働いていますので、児童福祉施設で働くことを強く希望している学生を歓迎します。
- ③大学生活で『楽しかった！自分自身成長した！』と実感できるようなゼミにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。